

仁 科 記 念 財 団

案 内

1994年 1 月

財団法人 仁科記念財団

ま え が き

仁科記念財団は1955年に戦後いちばん早く学術振興財団として、わが国の原子科学の祖、仁科芳雄博士を記念して創立され、そのとき以来毎年仁科記念賞贈呈と定例仁科記念講演会を欠かさず行い、またその他の事業を続けております。

財団の設立とその後の経過のあらまし、および「財団法人仁科記念財団寄附行為」¹⁾等については、「案内」²⁾の1992年5月の号に述べてあります。財団は今日ほぼ6億円の基金をもち、その利子と、経済界および内外学界の個人から年々いただく賛助会費ならびに随時寄附金を活動のもとでしております。

資金面ではそのような状況ですが、財団の存在の意義が広く認められ続けるためには、何といっても広い層からの、ことに学界からの支持と協力が必要であります。そして実際、今日まで活動が続けることができたのは、古くからの財団関係者以外の、また財団法人の理事、監事、評議員になってはおられない多数のかたがたの、温かい支持と協力のおかげであります。

そのような支持と協力にこたえ、さらにその輪をひろげることを念願して、われわれは9年前から小冊子「仁科記念財団案内」を発行しております。すこしでも多くのかたがたが仁科記念財団に対し親しみをもっていただくよう、この「案内」が役立てば幸いと存じます。

- 1)「寄附行為」というのは、財団法人の規定でほかの団体の場合「定款」と称しているものに当たります。
- 2)「案内」という名は、戦前に財団法人理化学研究所が出していた広報の堅苦しくない名称にならってつけました。

1994年1月

目 次

§ 1. 仁科記念財団はつぎの事業をおこなっています	1頁
§ 2. 仁科記念賞について	2頁
§ 3. 仁科記念講演会について	5頁
§ 4. 仁科記念研究奨励金について	6頁
(1) 小規模国際研究集会	6頁
(2) 研究者の海外派遣	7頁
(3) 発展途上国研究者の来日研究の援助	8頁
談話室 ポーランドの物理学者の滞日研究報告	9頁
ニュートン研究所紹介	11頁
役員および評議員名簿	16頁
付 録	
仁科記念賞受賞者とその業績	17頁
仁科記念奨励金贈呈先一覧	23頁
仁科記念奨励金贈呈先一覧（その二）	30頁
海外派遣研究者一覧	37頁

§ 1. 仁科記念財団はつぎの事業をおこなっています

1. 仁科記念賞贈呈

2. 仁科記念講演会の開催

この二つについては、§ 2 および § 3 で、それぞれの説明と1993年度の記録を述べます。

3. 外国のすぐれた学者の招聘

講演を依頼しますので、1993年度の記録を§ 3 で述べます。講演のほか、わが国の研究者と交際し、討論に参加してもらうこともおこなっており、それにも大きな意義があります。

4. 研究奨励金の贈呈

これについては§ 4 で概略と1993年度の記録を述べます。

5. 仁科記念文庫の運営

仁科記念室および仁科記念財団の朝永記念室¹⁾にある多数の貴重な資料の整理とその成果を利用しやすくするための作業をおこなっています。

1) 筑波大学にも「朝永記念室」があり、それと連絡しあっています。

6. 広報および調査

広報誌NKZその他の出版、および仁科博士、朝永博士をめぐる科学史資料の収集、調査をおこなっています。

§ 2. 仁科記念賞について

仁科記念賞は、原子物理学とその応用の分野で、最近数年間に極めて優れた業績をあげた研究者に贈られるもので、功成り名遂げた老大家ではなく、比較的若い現役の研究者を対象としています。

毎年、約400人の国内専門家に候補者の推薦を依頼し、財団の選考委員会が審査し、1乃至3件を決定します。

仁科記念賞の意義は既に我国の学界において確立され、物理学関係では最も重要な賞としての高い評価を得ています。

1993年度は第39回仁科記念賞を下記の2件3氏の研究に対して贈呈しました。

研究題目 高温プラズマにおける異常輸送とL-H遷移の理論

受賞者 文部省核融合科学研究所 伊藤 公孝

九州大学応用力学研究所 伊藤 早苗

推薦理由

強い磁場で閉じ込められた高温プラズマの、磁力線を横切る異常輸送現象の物理機構を解明することは、大変興味深いことである。また、将来の核融合炉を目指す研究においては、装置の大型化によってプラズマの閉じ込め性能がどのように改善されるかを予知することが大変重要となる。

しかしながら、現実のプラズマの振舞いは、非線形的であり、かつ揺動をとまなう乱流状態にあるので、異常輸送現象の解明は困難をきわめている。

近年、大型トカマク装置を用いた詳細、精密な実験データの蓄積によって、その閉じ込め特性がよく予測できるようになった。そしてプラズマの高温化のため、プラズマへの加熱入力を大きくしていくと、閉じ込めが劣化する現象が観測されていた。しかし、1982年西ドイツのASDEXというトカマク装置で、加熱入力のあるしきい値より大きくすると突然プラズマの密度や温度の空間分布がプラズマの境界で急峻になり、閉じ込め時間が約2倍に改善されるという現象が見出された。この新しく発見されたプラズマ状態をHモード(High-confinement mode)と呼び、従来

のプラズマ状態をLモード (Low-confinement mode) と呼んで区別し、その間の遷移をL-H遷移と呼んでいる。この物理機構は核融合計画にとって重要であるばかりでなく基礎物理学的観点からも大きな興味を持たれ、その解明が待たれていた。

伊藤公孝、伊藤早苗両氏は、ASDEX 研究グループなどと議論しながら、理論モデルの作成に取りかかった。プラズマと真空との境界付近では、ラーマー半径の大きいイオンはトラス効果による軌道損失をし、電子は電磁的揺らぎにともなって損失すると考え、その径向損失が異なるため、径方向電場が生じる。両氏はイオン軌道損失による径電場を予見し、L-H遷移を理論的に説明できるモデルを導いた。両氏はまたLモード閉じ込めに関する異常プラズマ輸送理論を発展させている。すなわち圧力勾配に起因する不安定性で生じた揺らぎによって異常輸送が起こるが、他方それに伴って不安定性の成長が抑制されるという繰込理論を展開した。このモデルに基づくと、Lモード閉じ込め特性がかなりよく説明できる。

以上のように、両氏は高温プラズマにおける非線形輸送理論を発展させ、近年注目を集めているL-H遷移がイオン軌道損失による径方向電場の分岐によることを世界で初めて示した。これらの業績は高く評価できる。

研究題目 新しい型の磁気相転移の研究

受賞者 理化学研究所 勝 又 紘 一

推薦理由

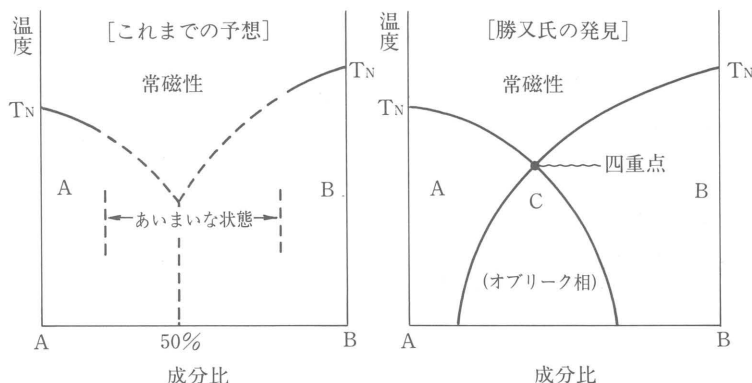
代表的な磁性体の一つに反強磁性体がある。この物質は高温では常磁性で、磁気モーメントは勝手な方向を向いているが、一定の転移温度(T_N)以下では磁気モーメントが反平行に整然と配列し、その向きは結晶の特定方向(磁化容易軸)にそろえられる。この配列は物質ごとに個性があり、それぞれが厳格に自己のパターンを守っている。

では、物質の異なるA,B 2種の反強磁性体を混合したらどうなるか? AにBを、あるいはBにAを混ぜていくと、それぞれの個性が崩れていき、中間ではA,Bどちらともつかぬあいまいな状態が出来る、というのがこれまでの常識であった。左図のような点線の境界が素朴な予想であるが、これらもはっきりとは見出せなかった。

勝又氏は $\text{FeCl}_2 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$ と $\text{CoCl}_2 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$ という、結晶学的には同等な、しかし磁化容易軸が 90° 異なる物質系に注目し、混合状態を詳細に調べた。その結果、予想をくつがえして右図のような極めて明確な、そして整然としたC相が出現することを発見した。この相では磁化容易軸はA, Bの性質の妥協の結果、磁気モーメントは傾いており、それで以後オブリーク相（傾いた相）と呼ばれることになったが、この相内部では磁気は決してバラバラになることなく、整然と一定方向を向いている。そしてこの相が出現したことで相境界の交点が四重点となるが、この出現は磁性体として初めてのものであり、統計熱力学の理論にも新たな興味を引き起こした。

この発見は世界に驚きをもって迎えられた。そしてこれを追う多数の論文が続出し、磁性研究の一分科を形成するに至った。現在これらは、「競合するスピン系における磁気相転移」の命題の下にまとめられ、発展をつづけている。

勝又氏は最近、整数スピンを持つ一次元反強磁性体においてハルデンが予想したエネルギーギャップを巧みな実験で証明し、更に新しい励起状態の仮説を提唱するなど、一貫して新しい型の磁気相転移研究を推進し、世界の第一人者としての地位を確立している。第39回仁科記念賞は勝又氏のこのような大きな業績が評価されて与えられることとなった。



§ 3. 仁科記念講演会について

仁科記念財団は、仁科博士の誕生日にあたる12月6日あるいはその近くに、定例の記念講演会をおこないます。このほかに外国の著名な物理学者を招いて行う講演会、地方で催す講演会があります。どの講演会も最近は、いろいろな大学との共同主催の形で行われています。この方式のよい点は、その学生にとって来聴しやすいだけでなく、他の大学の学生や研究者たちにも呼びかけることによって、大学間のかべを低くする効果が得られることにあります。伝統ができあがっており、ことに定例記念講演会はいろいろな方面に進んだ同窓生が顔をあわせる機会にもなります。

1993年度は次の講演会を開催しました。

a. 1986年ノーベル物理学賞受賞者ローラー博士を招いての講演会（東京大学理学系研究科と共同主催）

日 時 1993年6月25日（金）午後3時半～4時半（開場3時）

会 場 東京大学理学部化学教室講堂

講 演 The New World of the Nanometer

H. Rohrer 博士 (IBM チューリッヒ研究所)

b. 同上（東北大学理学部物理学科，東北大学金属材料研究所，日本物理学会東北支部と共同主催）

日 時 1993年6月29日（火）午後1時半～3時（開場1時）

会 場 東北大学理学部大講義室

演 題 Challenges for Proximal Probe Methods

c. 1980年ノーベル物理学賞受賞者クロニン教授を招いての講演会（東京大学理学系研究科と共同主催）

日 時 1993年9月17日（金）午後3時半～4時半（開場3時）

会 場 東京大学理学部化学教室講堂

講 演 The Experimental Discovery of CP Violation

J. W. Cronin 教授（シカゴ大学）

d. 同上（京都大学基礎物理学研究所，日本物理学会京都支部と共同主催）

日 時 1993年9月20日（月）午後3時より（開場2時半）

会 場 京都大学基礎物理学研究所大講演室

e. 第39回定例講演会（東京工業大学理学部と共同主催）

日 時 1993年12月4日（土）午後2時～5時（開場1時半）

会 場 東京工業大学百年記念館3階フェライト記念会議室

講 演 電気抵抗極小の話

東邦大学理学部教授 近 藤 淳

映 画 「仁科芳雄」

§ 4. 仁科記念研究奨励金について

この研究奨励金は、(1)小規模国際研究集会の助成と、(2)わが国の若い研究者の海外での共同研究への援助にあてられています。1992年度からは(3)発展途上国の研究者の来日研究の援助も、各界からの強い要望にこたえて始められました。(1)は総経費（参加費を除く）が500万円程度のものでし、その申請に対して仁科記念財団から200万円以内の助成を行います。(2)は公募して選考します。財団が選考の参考とする意見書の提出をお願いする数名のかた（いままでの指導者および同僚）を応募者に指名してもらいます。滞在期間は1年、在職者のばあいには所属機関の承認が得られること、年齢が35歳未満であることが必要です。(3)は受け入れを担当して下さるわが国の研究者に入学ならびに滞在中のお世話をお願いしております。

(1) 小規模国際研究集会

1993年度は下記の小規模国際シンポジウムに対し助成しました。

a. 対 象：ミュオンスピン，回転，緩和，共鳴，国際会議 1993年6月7日～11日

ハワイ，マウイ Intercontinental Resort において

金 額：1,000,000円

代表者：東京大学理学部教授 永 嶺 謙 忠 氏

参加者：国内121名，国外103名

b.対 象：第11回ホウ素及びホウ化物に関する国際シンポジウム

1993年8月22日～26日 つくば研究交流センターにおいて

金 額：1,000,000円

代表者：日本大学文理学部教授 宇 野 良 清 氏

参加者：国内55名，国外34名

c.対 象：湯川国際セミナー「量子とカオス」

1993年8月24日～28日 日本クリスチャンアカデミー関西セミナーハウスにおいて

金 額：1,000,000円

代表者：京都大学基礎物理学研究所教授 池 田 研 介 氏

参加者：国内50名，国外22名

d.対 象：第21回純粋・応用物理学連合総会

1993年9月20日～25日 奈良県新公会堂において

金 額：1,000,000円

代表者：電気通信大学教授 宅 間 宏 氏

参加者：国内58名，国外69名

e.対 象：第4回物性研シンポジウム「強磁場における最前線」

1993年11月11日～12日 東京大学物性研究所において

金 額：1,000,000円

代表者：東京大学物性研究所所長 竹 内 伸 氏

参加者：国内153名，国外38名

(2) 研究者の海外派遣

1993年度は下記の4名を派遣しました。

広島大学理学部物理学科助手 大野木 哲 也

研究目的：素粒子論

派 遣 先：アメリカ，フェルミ研究所

広島大学理学部物性学科助手 森 弘 之

研究目的：物性理論

派遣先：アメリカ，インディアナ大学

順天堂大学医学部物理研究室助手 中 田 仁

研究目的：原子核理論

派遣先：アメリカ，エール大学

学習院大学理学部化学科助手 加 藤 隆 二

研究目的：放射線化学

派遣先：ドイツ，ハーン-マイトナー研究所

(3) 発展途上国研究者の来日研究の援助

1993年度は下記の4名に援助しました。

ポーランド ミッキエヴィッチ大学物理学科 A.リボウスキ博士 統計物理

1992年度より継続, 1993年8月帰国

受け入れ担当 東京大学理学部 鈴木増雄教授

ベトナム ベトナム科学アカデミー理論物理研究所 ホアン ゴク ロン博士

1993年6月から10月まで

受け入れ担当 高エネルギー物理学研究所 湯川哲之教授

ベトナム Graduate College of Physics Hanoi, NCSR 物性論部主任 グエン

アイ ヴィエト教授

1993年7月から6ヵ月

受け入れ担当 東京大学物性研究所 安藤恒也教授

中国 厦門大学物理学科 Teaching Assistant, リン ティンティン修士

1993年1月から1年

受け入れ担当 高エネルギー物理学研究所 小林 誠教授

談 話 室

ポーランドの物理学者の滞日研究報告

前号（「案内」1993年3月）所載のベトナムの理論物理学者ズオンヴァンフィー教授の「日本訪問記」抄訳に続いて、ポーランドのリボウスキ博士の報告を載せます。これは、1992年8月から1年間、当財団の途上国研究者援助計画により東京大学理学部物理学教室鈴木増雄教授の研究室で研究を続けたポーランド、ミツキエヴィッチ大学のアダム・リボウスキ博士が書いた英文の報告の全訳です。

報 告

1992年8月10日に私は仁科記念財団のフェローとなりました。この奨学金のおかげで私は東大鈴木教授のグループで日本滞在の2年目を過ごすことができました。前年同様、この年もまた私の研究生活で最も重要な年であったことは確かです。鈴木教授は統計力学の分野での指導的学者であり、そのグループはたいへん活発です。彼らと議論を重ねることによって私は何度も新しいアイデアを得、論文にまとめることができました。その論文リストを別紙に記します。さらに、我々の結果を次の学会で発表しました。

- ・統計力学国際ワークショップ 1992年10月18～22日 北京
- ・多分野研究のためのSTAフォーラム「非線形現象—ゆらぎと秩序生成」

1993年3月12～17日 岐阜

- ・日本物理学会年会 1993年3月29日～4月1日 仙台

これらの会議出席は日本の（そして中国の）歴史や文化に接するまたとない機会でした。私と妻は多くの著名な興味深い場所を訪ね強い印象を受けました。

日本滞在中のもう一つの重要な機会は、鈴木研究室で行われた多くのセミナーに

出席したことでした。そこには我々の研究グループのメンバーだけでなく、世界中から色々な学者が参加し、私もそこで結果を発表しました。

最近の統計力学の研究では、殆どの場合膨大な数値計算が必要です。私の研究でも数値計算は非常に大切でした。これらの数値計算は東京大学の優秀な計算設備によって初めて可能となりました。残念ながらポーランドで使えるコンピュータの速度と容量ははるかに低く、東大でなし得た計算は故国では不可能です。

非常によく整備された図書室、高速のコンピュータやスーパーコンピュータなどのおかげで日本は統計力学の分野でも指導的地位を保っています。（他の多くの分野でもそうです）。日本には、非常に活発な統計力学研究グループが幾つかあって、急速に発展を遂げつつあるこの分野に重要な貢献を与えています。私は、このようなグループのメンバーの一人として、非常にエキサイティングで感動的で、しかも実り多い経験を積むことができました。これも仁科記念財団の多大なご援助によるものであり、心からお礼申し上げます。

ア ダ ム リ ポ ウ ス キ



A. リポウスキ博士夫妻（帰国前日駒込スカイラークにて）

1991年度海外派遣研究者 菅野浩明氏（当時京都大学基礎物理学研究所，学振特研究生）は，重力理論の研究を目的としてイギリス，ケンブリッジ大学におもむき，ちょうど新設されたニュートン研究所に属して研究生活を送った後，1993年帰国して，現在，広島大学理学部数学教室に所属しています。新しい研究所紹介の執筆を依頼したところ，早速応じてもらえたので，以下に載せます。



小さいが大いに特色のある研究所

ニュートン研究所紹介

広島大学理学部 菅野 浩明

ケンブリッジ大学は小さな町である。古い伝統を感じさせるキングスカレッジのチャペルのそびえる町の中心部から15分も歩くと，あたり一面の牧草地や麦畑を見ることができる。ケンブリッジ大学の数理科学部門（DPMMSとDAMTP）の建物は，この小さな町の中心やや南よりに位置するが，その北西1マイルのところに1992年夏からその活動を開始した Isaac Newton Institute for Mathematical Sciences（ニュートン研究所）がある。（ただし，公式の開所式は1992年10月30日

にケンブリッジ大学の総長の地位にあるエジンバラ公を迎えて行われた。) さらにここから西へ半マイル行ったところにあるキャベンディッシュ研究所の広大な建物群に比べてニュートン研究所の方は、それと知らなければ見逃してしまいそうな程小さな建物である。

私は、仁科記念財団の海外派遣研究者として1992年7月から1993年6月までケンブリッジ大学の DAMTP (Department of Applied Mathematics and Theoretical Physics) に滞在した。この一つの目的が ニュートン研究所の Opening Project である Low-dimensional Topology and Quantum Field Theory (1992年7月より1992年12月まで) であった。以下は、この滞在中に得た情報および経験に基づく研究所の簡単な紹介である。

ニュートン研究所は、数理科学とその幅広い応用の研究を目的として、ニュートンゆかりのケンブリッジに設立された新しい研究所である。半年ごとに独立した二つのテーマを決めて同時進行のかたちで研究が行われている。参考のために、これまでとりあげられたテーマおよび今後の予定を列挙してみると、つぎのようになる。

● 1992/7-1992/12

- Low-dimensional Topology and Quantum Field Theory
- Dynamo Theory

● 1993/1-1993/6

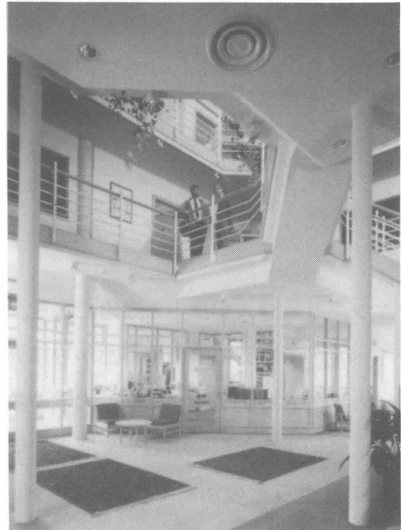
- L-functions and Arithmetic
- Epidemic Models

● 1993/7-1993/12

- Computer Vision
- Random Spatial Processes

● 1994/1-1994/6

- Geometry and Gravity
- Cellular Automata, Aggrega-



tion and Growth

● 1994/7-1994/12

—Topological Defect

—Symplectic Geometry

これから窺えるように、研究テーマは数学、統計、計算機科学、物理学、化学、生物学、医学、経済学、その他にわたり非常に幅広いものになっている。（ここにあげたテーマの中身をすべてどこかで聞いたことのある方がどれだけおられるだろうか。）研究所の運営方法の特徴としては、常勤のスタッフをほとんどおかずに、その研究分野での第一線の研究者を招待して研究を進めるという形態をとっていることがあげられる。ひとつのテーマについて、常時、20人、のべ40人程度の研究者が招かれ、彼等が中心となって、セミナー、講義、シンポジウム、個人的議論が行われる。

研究所の所長は、指数定理で有名な Sir Michael Atiyah 教授である。彼は、インスタントン、アノマリー等、幾何学の場の理論への応用でも重要な仕事をしてきており、物理学に対しても多くの興味を示している。Atiyah 教授は、一方で

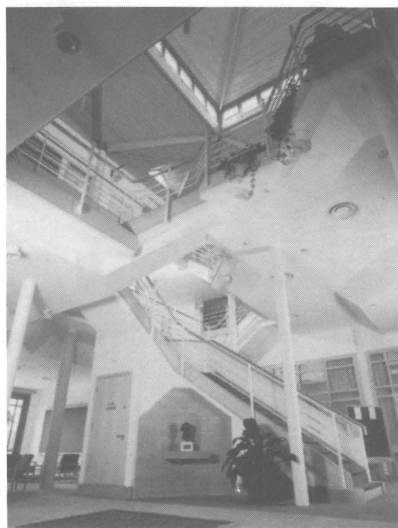


Royal Society の President および Trinity College の Head Master を兼務していて多忙のため、日常の研究所の運営は副所長である DAMTP の Peter Goddard 教授があたっている。彼は、弦理論や共形場理論の仕事でよく知られている。私も、DAMTP 滞在中は彼のグループのセミナーに参加させてもらうなどたいへんお世話になった。研究所の公式な案内書によると、研究所はこの二人を経営委員会 (Managing Committee) と学術運営委員会 (Scientific Steering Committee) が助けるという

形で運営され、各プロジェクトに対して3ないし4人の専門家が組織委員として働くそうである。

ニュートン研究所は、京都北白川の基礎物理学研究所（湯川記念館）と比べても小さく感じられる。その規模の小ささに加えて内部構造に工夫がなされており、研究所は非常に解放的な印象をうける。一階には、事務部門の部屋と図書室、そして大小二つのセミナー室がある。二階以上の部分が各研究室にあてられているが、特徴的なことは建物の中央部分が広い吹抜けの空間になっていることである。この吹抜け部分の中程の高さの所にコモンスペースがつくられていて、ここで軽食や飲物をとったり、気楽な会話を楽しむことができる。各研究室は、このコモンスペースを取り囲むように配置されている。このように内部は言葉で説明するのが難しいほど巧みに設計されている。このコモンスペースに立つと研究所内がすべて視野にはいり、どこで何が進行しているかがよくわかる。これが、研究所の解放的な印象につながっていて、そこに集まる人々のコミュニケーションに役だっているように思われる。また、ニュートン研究所の中には、いたるところに黒板がかけてある。それはトイレのなかにまで及んでいるという徹底ぶりである。（これが英国流というものであろうか？）

さて、ニュートン研究所はケンブリッジの主なカレッジをはじめとする各方面からの基金をもとに設立されたが、その長期的な経済基盤はまだ十分とはいえないようである。ニュートン研究所の建物と土地は、セントジョーンズカレッジから無償で貸与されたもので、将来的には研究所が買い取らなければならないという話を聞いた。したがって、今後数年間の研究成果が生き残りのために重要なポイントといえるようである。（この意味で、A.Wiles 教授がニュートン研究所



でフェルマーの定理の証明を初めて発表したことは、大きなプレゼントといえるかも知れない。) 日本からも、研究者という人的交流の面と運営資金という経済協力の面の両面からの支援が可能であると思われる。ニュートン研究所の今後の発展を期待してこの紹介記事を閉じることにする。

なお、研究所の連絡先は、

Isaac Newton Institute for Mathematical Sciences,

20 Clarkson Road, Cambridge CB3 0EH, U.K.

e-mail : i.newton@newton.cam.ac.uk

TEL : +44 223 335999

である。Deputy Director の Goddard 教授あてにすれば、研究所の活動内容に関する資料が手にはいるはずである。

役員および評議員名簿

(1994年 1 月31日現在)

理 事 長 久保 亮五

常 務 理 事 鎌田 甲一 玉木 英彦 西島 和彦

理	事	伊藤 昌壽	伊部恭之助	太田 清蔵	小田 稔
		鹿島 昭一	香西 昭夫	佐波 正一	齋藤 裕
		中根 良平	浜田 達二	林 主税	原 禮之助
		平岩 外四	三浦 功	三田 勝茂	村本 周三
		吉野 照蔵	渡里杉一郎		

監 事 池田 長生 小山 五郎 佐々木秋生

評	議	員	岩佐 凱実	植村 泰忠	江口 禎而	江戸 英雄
			岡本 耕輔	金森順次郎	上坪 宏道	木越 邦彦
			小林 稔	坂井 光夫	佐田登志夫	杉本 正雄
			鈴木 増雄	関本 忠弘	曾田 範宗	高木丈太郎
			竹内 柁	竹中 鍊一	田島 英三	田中 靖郎
			豊沢 豊	中原 恒雄	西川 哲治	仁科雄一郎
			西村 純	弘世 現	藤井 忠男	伏見 康治
			丸森 寿夫	宮 憲一	宮崎友喜雄	宮沢 弘成
			宮島 龍興	山崎 敏光	芳田 奎	和田 昭允

仁科記念賞受賞者とその業績

年 度	受 賞 者	受 賞 者 業 績
1955	大阪大学理学部 緒方 惟一氏	大型質量分析器の完成
	大阪市立大学理学部 西島 和彦氏	素粒子相互変換
1956	大阪大学理学部 芳田 奎氏	反強磁性体における磁気異方性エネルギー
	東京大学農学部 三井 進午氏	同位元素による植物の栄養ならびに土壤肥料学的研究
	農業技術研究所 西垣 晋氏	
	〃 江川 友治氏	
	蚕糸試験場 潮田 常三氏	
1957	東京大学理学部 久保 亮五氏	非可逆過程の統計力学
1958	大阪大学理学部 杉本 健三氏	原子核の励起状態の磁気能率、および電気四極子能率の測定
	東京教育大学理学部 沢田 克郎氏	電子ガスの相關エネルギーに関する研究
1959	ソニー株式会社 江崎玲於奈氏	エサキダイオードの発明、およびその機能の理論的解明
	理化学研究所 中根 良平氏	化学交換反応による同位元素濃縮
1960	大阪府立大学理学部 吉森 昭夫氏	磁性結晶におけるスピンのらせん状配列の理論
1961	東京大学原子核研究所 丹生 潔氏	中間子多重発生の火の玉模型
	名古屋大学理学部 福井 崇時氏	ディスチャージチェンバーの研究と開発
	大阪市立大学理学部 宮本 重徳氏	
	京都大学理学部 松原 武生氏	量子統計力学の方法
1962	名古屋大学プラズマ研究所 高山 一男氏	低密度プラズマの研究——特に共鳴探針法の発明
	工業技術院電気試験所 佐々木 亘氏	ゲルマニウムの熱い電子の異方性の研究
1963	京都大学理学部 林 忠四郎氏	天体核現象の研究

年度	受 賞 者	受 賞 者 業 績
1964	東京大学理学部 岩田 義一氏	静電磁場における電子、およびイオンの運動に関する研究
	東京教育大学光 瀬谷 正男氏 学研究所	真空分光計に関する研究
1965	京都大学教養部 三谷 健次氏	弱電離プラズマのサイクロトロン周波数における負吸収の研究
	名古屋大学プラ 田中 茂利氏 ズマ研究所	
	大阪市立大学理 三宅 三郎氏 学部	宇宙線ミュー中間子およびニュートリノの研究
1966	東京大学宇宙航 小田 稔氏 空研究所	SCO-X-1 の位置決定
	東京大学物性研 豊沢 豊氏 究所	固体光物性の動力学的理論
1967	広島大学理学部 小川 修三氏	基本粒子の対称性に関する研究
	東京大学原子核 山口 嘉夫氏 研究所	
	東京大学宇宙航 西村 純氏 空研究所	超高エネルギー相互作用における横向き運動量の研究
1968	九州大学理学部 森 肇氏	非平衡状態の統計力学
	工業技術院電気 近藤 淳氏 試験所	希薄合金の抵抗極小の解明
1969	大阪大学教養部 松田 久氏	原子質量精密測定用大分散質量分析装置の開発
	名古屋大学プラ 池地 弘行氏 ズマ研究所	イオン波エコーの研究
	京都大学理学部 西川 恭治氏	
1970	学習院大学理学 木越 邦彦氏 部	炭素-14 による年代測定に関する研究
	東京大学理学部 西川 哲治氏	線型加速器に関する基礎研究
1971	東京大学原子核 菅原 寛孝氏 研究所	基本粒子の対称性の応用
	ミュンヘン工科 森永 晴彦氏 大学	インピーダンススペクトロスコピーの創出と原子核構造の研究

年 度	受 賞 者	受 賞 者 業 績
1972	テンプル大学物 川崎 恭治氏 理学科	臨界現象の動力学的理論
	東北大学理学部 真木 和美氏	超伝導体の理論的研究
1973	京都大学数理解 中西 襄氏 析研究所	場の量子論における散乱振幅の諸性質の分析
	京都大学基礎物 佐藤 文隆氏 理学研究所	重力場方程式の新しい厳密解の発見とその宇 宙物理学への応用
	広島大学理論物 富松 彰氏 理学研究所	
1974	大阪大学教養部 大塚 颯三氏	半導体電子輸送現象のサイクロトロン共鳴によ る研究
	ニューヨーク市 崎田 文二氏 立大学	素粒子の超多重項理論および二重性理論の研究
1975	東京大学理学部 山崎 敏光氏	核磁気能率における中間子効果の発見
	東京大学物性研 花村 榮一氏 究所	多励起子系の理論的研究
1976	九州大学理学部 磯矢 彰氏	静電高压加速器の研究とその新機軸の開発
	ロチェスター大 大久保 進氏 学理学部	強い相互作用による素粒子反応に対する選択規 則の発見
	名古屋大学理学 飯塚重五郎氏 部	
1977	東京大学物性研 塩谷 繁雄氏 究所	ピコ秒分光法による半導体の高密度励起効果の 研究
	京都大学基礎物 牧 二郎氏 理学研究所	素粒子の四元模型
	筑波大学物理学 原 康夫氏 系	
1978	分子科学研究所 廣田 栄治氏	高分解能高感度分光法によるフリーラディカル の研究
	東京大学理学部 有馬 朗人氏 東京大学原子核 丸森 寿夫氏 研究所	原子核の集団運動現象の解明

年度	受 賞 者	受 賞 者 業 績
1979	東京大学物性研究所 守谷 亨氏	遍歴電子強磁性の理論
	高エネルギー物理研究所 小林 誠氏	基本粒子の模型に関する研究
	東京大学原子核研究所 益川 敏英氏	
1980	大阪大学理学部 伊達 宗行氏	超強磁場の発生
	東北大学原子核理学研究施設 鳥塚 賀治氏	原子核の巨大共鳴の研究
	京都大学理学部 九後汰一郎氏 プリンストン高級研究所 小嶋 泉氏	非可換ゲージ場の共変的量子化の理論
1981	東京大学教養学部 杉本大一郎氏	近接連星系の星の進化
	高エネルギー物理研究所 吉村 太彦氏	宇宙のバリオン数の起源
1982	筑波大学理工学系 安藤 恒也氏	MOS 反転層における二次元電子系の理論的研究
	(株)日立製作所中央研究所 外村 彰氏	電子線ホログラフィー法の開発とその応用
1983	フェルミ国立加速器研究所 山内 泰二氏	ウプシロン粒子の発見に対する貢献
	東京大学理学部 増田 彰正氏	希土類元素の微量精密測定と宇宙・地球科学への応用
1984	東京大学理学部 江口 徹氏	格子ゲージ理論
	コーネル大学 川合 光氏	
	東北大学理学部 石川 義和氏	中性子散乱による金属強磁性の研究
	学習院大学理学部 川路 紳治氏	二次元電子系における負磁気抵抗および量子ホール効果の実験的研究
1985	マサチューセッツ工科大学 田中 豊一氏	ゲルの相転移現象の研究
	新技術開発事業団 飯島 澄男氏	少数原子集団の動的観察
	宇宙科学研究所 田中 靖郎氏	てんま衛星による中性子星の研究

年 度	受 賞 者	受 賞 者 業 績
1986	東京大学理学部 鈴木 増雄氏	相転移秩序形成及び量子多体系の統計物理学
	広島大学理論物 藤川 和男氏 理学研究所	場の量子論における異常項の研究
	広島大学核融合 佐藤 哲也氏 理論研究センター	散逸性磁気流体プラズマの非線形ダイナミックス
1987	東京工業大学 高柳 邦夫氏	シリコンの表面構造の研究
	東京大学東京天 森本 雅樹氏 文台	ミリ波天文学の開拓
	〃 海部 宣男氏	
	東海大学理学部 小柴 昌俊氏	超新星爆発に伴うニュートリノの検出
	東京大学理学部 戸塚 洋二氏 素粒子物理国際 センター	
	東京大学宇宙線 須田 英博氏 研究所	
1988	名古屋大学理学 松本 敏雄氏 部	宇宙背景輻射のサブミリ波スペクトルの観測
	大阪大学理学部 吉川 圭二氏	ひもの場の理論
	東京大学物性研 齋藤 軍治氏 究所	有機超伝導体の新しい分子設計と合成
1989	理化学研究所 谷畑 勇夫氏	不安定原子核ビームによる原子核の研究
	東京大学理学部 野本 憲一氏	超新星の理論的研究
1990	東京大学理学部 佐藤 勝彦氏	素粒子論的宇宙論
	東京大学理学部 十倉 好紀氏	電子型銅酸化物超伝導体の発見
	高エネルギー物 横谷 馨氏 理学研究所	リニアコライダーにおけるビーム相互作用の研究
1991	高エネルギー物 北村 英男氏 理学研究所	挿入型放射光源の開発研究
	分子科学研究所 齋藤 修二氏	星間分子の分光学的研究
	東京大学理学部 和達 三樹氏	ソリトン物理学とその応用

年度	受 賞 者	受 賞 者 業 績
1992	NTT基礎研究所 山本 喜久氏	光子数スクイーズ状態の形成および自然放射の制御
	筑波大学物質工 大貫 惇睦氏 学系	遍歴する重い電子系のフェルミ面に関する研究
	新潟大学教養部 長谷川 彰氏	
	東北大学理学部 柳田 勉氏	ニュートリノ質量におけるシーソー機構
1993	核融合科学研究 伊藤 公孝氏 所	高温プラズマにおける異常輸送とL-H遷移の理論
	九州大学応用力 伊藤 早苗氏 学研究所	
	理化学研究所 勝又 紘一氏	新しい型の磁気相転移の研究

(受賞者の所属は受賞時のものによる。)

仁科記念奨励金贈呈先一覧

年度	贈 呈 先	研 究 題 目
1956	大阪大学理学部 山部昌太郎氏	陽子の軽原子による非弾性散乱の角度分布
	小林理学研究所 加藤 範夫氏	結晶完全度に関するエックス線の研究
	東京大学応用微生物研究所 宮地 重遠氏	トレーサーによる光合成の研究
1957	大阪大学理学部 渡辺得之助氏	中性子線回折研究用モノクロメーター
1958	名古屋大学農学部 斎藤 哲夫氏	トレーサーによる殺虫剤の作用機構に関する研究
	大阪市立大学理工学部 斎藤 喜彦氏	エックス線の異常分散の結晶構造解析への応用
1959	東京大学教養学部 石黒 浩三氏	極端紫外領域における固体の光学的研究
	東京大学大学院学生 石塚 浩氏	直線型プラズマ加速装置
	立教大学理学部 道家 忠義氏	低エネルギー重荷電粒子の各種気体に対する電離効率の研究
	東京大学原子核研究所 藤本 陽一氏	宇宙線の起源
	〃 小柴 昌俊氏	
1960	理化学研究所 鎌田 甲一氏	空気シャワーの高度変化
	東京大学原子核研究所 小田 稔氏	^{14}C 定量による長期間の宇宙線強度変動の測定
	工技院名古屋工業技術試験所 榎本 茂正氏	β 線による蛍光X線とその工業への応用
	東京大学医学部 宮川 正氏	中性子捕獲療法の一変法について——硼素コロイド使用
1961	東京大学理学部 武部 啓氏	微生物における放射線感受性の機構
	関西学院大学理学部 富家勇次郎氏	極低温単結晶構造解析とクライオスタット製作
	大阪市立大学理学部 三宅 三郎氏	2000 米以上の深さにおけるミュー中間子の測定
1962	東京大学理学部 有馬 朗人氏	原子核構造の殻模型による研究

年度	贈 呈 先	研 究 課 題
1963	東北大学電気通信研究所 西沢 潤一氏	強電界半導体中におけるキャリアの拡散
	北海道大学理学部 三井 利夫氏	X線によるチタン酸バリウム系強誘電体の格子振動の研究
	大阪大学教養部 松田 久氏	分解能 1000 万程度の質量分析器の製作と測定
	東京大学教養学部 高木佐知夫氏	固体内電子のプラズマ振動と電子線の非弾性散乱の研究
1964	九州大学工学部 米田 泰治氏	X線の異常表面反射効果に対する研究
	東京工業大学 池上 栄胤氏	極低エネルギー電子の検出と原子核の微細構造
	東京大学教養学部 真隅 泰三氏	ポーラロンの研究
1965	名古屋大学理学部 大西 勲氏	生体膜におけるイオン輸送機構の研究
	東京大学教養学部 藤原 邦男氏	陽電子消滅法による固体内電子の運動状態の研究
	学習院大学理学部 長谷川博一氏	海底堆積物中の長寿命宇宙線生成物の研究
	名古屋大学理学部 三浦謹一郎氏	転移リボ核酸のアミノ酸暗号翻訳機構
1966	東京大学教養学部 伊藤 隆氏	放射線による突然変異誘発機構の研究——特に分子鎖仮説につき
	東北大学理学部 斎藤 一夫氏	金属錯化合物の同位体交換反応の研究
	大阪大学理学部 大塚エイ三氏	半導体中の電気的双極子による電子散乱の研究
	東京大学物性研究所 小林 晨作氏	偏極 ^{59}Co 核と偏極中性子との相互作用
1967	東北大学科学計測研究所 井上 鋒明氏	高速イオンの弾性散乱の研究
	大阪市立大学理学部 勝俣 五男氏	イオンセンシティブプローブ（磁場中プラズマのイオン温度測定法）の研究
	東京都立大学理学部 久米 潔氏	高感度磁気共鳴法による Kondo 効果の研究

年度	贈 呈 先	研 究 課 題
1968	東京大学理学部 和田 昭允氏	分子遺伝情報の電子顕微鏡による直接読み出し
	東京大学理学部 山崎 敏光氏	核反応による核整列：電磁気能率と核外場の相互作用
	立教大学理学部 白土 鈔二氏	速中性子による重陽子崩壊反応における終状態相互作用の研究
	京都大学理学部 宇田川 猛氏	体相関に基づく原子核の集団励起に関する研究
	お茶の水女子大学理学部 佐野 博敏氏	メスバウアー分光学による分子間、および分子内結合状態の研究
	金沢大学理学部 阪上 正信氏	U-237、Th-231 に関する放射化学的研究
	大阪大学理学部 沢田 康次氏	超音波による金属、半金属の電子的性質の研究
1969	学習院大学理学部 川路 紳治氏	InAs, Ge の真空中劈開面における二次元異常電気伝導の実験
	大阪大学理学部 小川 英行氏	DNA 障害修復の分子機構
	名古屋大学工学部 梅野 正義氏	電子-正孔プラズマの強磁場伝導現象の研究
	京都大学工学部 岡村 誠三氏	イオン-分子反応による放射線重合の初期過程の研究
	東京大学物性研究所 小林 浩一氏	イオン結晶の磁気光効果——ポーラロンからなるエキシトンおよびランダウ準位の研究
	東京大学工学部 国府田隆夫氏	外場効果によるイオン結晶の励起子状態の研究
	東京大学理学部 須田 英博氏	超高エネルギー μ 中間子束の研究
1970	理化学研究所 小林 駿介氏	遠赤外レーザーによる半導体の光伝導に関する研究
	東京大学理学部 富永 健氏	ラジオガスクロマトグラフ法による無機化合物および有機金属化合物の放射化学的研究
	東京大学医科学研究所 吉川昌之介氏	細菌における染色体外性遺伝子 (Plasmids) 相互間の反応——特に R 因子を中心にして
	九州大学理学部 廣田 栄治氏	遠赤外レーザー分光による不安定分子フリーラディカルの研究
	大阪大学蛋白質研究所 栗木 芳隆氏	蛋白質生合成系における GTP 加水分解反応と translocation の共転機構の研究

年度	贈	呈	先	研 究 課 題
1971	東京大学工学部	堂山	昌男氏	陽電子消滅法による超高圧下の金属、合金、および半導体のフェルミ面の研究
	京都大学工学部	吉田	善一氏	金属同位元素によるボルフィリン錯体に関する研究
	東京大学物性研究所	生嶋	明氏	液体ヘリウムにおける臨界揺動の研究
	立教大学理学部	阮	建治氏	単一 Ge 結晶マルチゴニオメータの製作と応用
	東京大学教養学部	原田	義也氏	光電子分光法の分子性結晶への応用
	北海道大学理学部	相原	惇一氏	オキシカーボン (Oxocarbon) 類の固体物性の研究
	大阪大学微生物病研究所	竹田	美文氏	アミノアシル転移RNA合成反応の研究
	東京大学教養学部	桜井	捷海氏	レーザーと光子計数法による光子相関を用いた原子分子のエネルギー準位の研究
	九州大学理学部	間瀬	正一氏	強磁場中の半金属におけるエキシトニックフェーズの研究
	東京大学理学部	中井	浩二氏	超微細相互作用と不安定核モーメント
	京都大学工学部	宇尾	光治氏	ヘリカルヘリオトロン磁場の性質に関する理論的研究
	東京大学理学部	藤原	鎮男氏	無機錯体のガンマ線照射により生成するホットイオンの研究
1972	東京工業大学理学部	川久保達之氏		非平衡系のゆらぎ現象に関する実験的研究
	理化学研究所	高橋	旦氏	液体キセノンを用いた多線陽極比例計数管の試作
	福井大学工学部	神藤	洋爾氏	蛍光円二色性測定装置の試作と光学活性物質の構造解明への応用
	東京大学物性研究所	大林	康二氏	揺動および緩和減少の量子光学的研究
	京都大学原子炉実験所	東村	武信氏	極低温を用いた凝縮相放射線化学の初期過程の研究

年 度	贈 呈 先	研 究 課 題
1973	東京大学教養学 青木 禎氏 部	励起された原子分子集合体のコヒーレンス状態の研究
	東京大学理学部 清水 忠雄氏	レーザー二重共鳴法によるダイナミカルな分子過程の研究
	東京教育大学理 内野倉国光氏 学部	混晶の二次ラマン散乱による研究
	お茶の水女子大 丸山 有成氏 学理学部	トンネルスペクトロスコピーによる固体有機物の電子状態の研究
	岡山大学温泉研 酒井 均氏 究所	鉱物-水間の ^{18}O の分配の実験的理論的研究とその地球化学的应用
	大阪大学理学部 音在 清輝氏	原子遷移による核励起の研究
	大阪大学基礎工 西田 良男氏 学部	遠赤外レーザーによる励起子の分光的研究
	電気通信大学 井上 雅夫氏	イオンサイクロトロン共鳴による原子量の精密測定
	東北大学金属材 後藤 武生氏 料研究所	二次元半導体における高密度励起子効果
	東京都立大学理 藤山 常毅氏 学部	光散乱の微細構造の観測と液体構造
1974	富山大学薬学部 北川 泰司氏	過冷却粒子の生成に関する研究——ノズル・ビーム法の適用
	東京大学原子核 小川 建吾氏 研究所	原子核集団運動の殻模型による理論的研究
	九州大学工学部 俵 博之氏	高電離重イオン衝突における内殻電離機構の研究
	大阪大学理学部 呂瀬 和生氏	ラマン散乱によるフォノン-プラズモン結合モードの分散関係の研究
	東北大学金属材 富吉 昇一氏 料研究所	電子ライナックを用いたパルス法中性子非弾性散乱による遷移金属、非晶体等の高いエネルギー励起状態の研究
	東京大学理学部 平川 浩正氏	中性子星からの重力波の検出に関する研究
	東京大学工学部 氏平 祐輔氏	ポジトロニウムの反応に関する研究

年度	贈 呈 先	研 究 課 題
1975	広島大学理学部 尾田 年充氏	高密度プラズマからの He II スペクトル線のシュタルク・ブロードニングの測定
	青山学院大学理工学部 中村 弘氏	$\alpha + D \rightarrow \alpha + n + p$ 反応の分析
	東京大学教養学部 酒井 純氏	赤外レーザーによる分子の非線形分光
	金沢大学工学部 清水 立生氏	非晶質半導体に対する不純物の影響
	京都大学原子炉実験所 前田 豊氏	偏極 γ 線によるヘム蛋白の電子状態の研究
	東北大学理学部 吉原 賢二氏	インプランテーションによる新化学種の生成とその化学性、物性の研究
	京都大学理学部 志田 忠正氏	γ 線照射によって生ずるイオンラディカルの電子状態の研究
1976	広島大学総合科学部 岡本 哲彦氏	強磁性臨界点近傍の動的スピン過程の光散乱による研究
	女子栄養大学栄養学部 中山 博明氏	先駆体錯体を用いた一価金属イオンの気相反応の研究
	立教大学理学部 窪田 信三氏	電離放射線励起による固体、液体アルゴン、クリプトン、ゼノンの励起発光の実験的研究
	埼玉工業大学電子工学科 深町 共栄氏	吸収端近傍における X 線異常散乱の研究
	東京大学教養学部 西川 勝氏	高密度炭化水素気体中の準自由原子のエネルギー
	甲南大学理学部 香川喜一郎氏	レーザー光照射による色中心生成機構の研究
	東京大学原子核研究所 坂田 文彦氏	球形核における非調和効果の微視的研究
1977	広島大学理学部 桜井 醇児氏	希土類金属間化合物における希土類原子の不対電子と伝導電子部分波成分の間の磁気相互作用に関する輸送現象的研究
	明星大学理工学部 菅野 等氏	高圧下での過冷却水溶液における同位体効果
	山口大学工業短期大学部 鶴久森正毅氏	固体の強励起状態の研究

年度	贈 呈 先	研 究 課 題
1978	筑波大学物理学系 関根 智幸氏	二次元層状物質のラマン散乱
	富山大学教育学部 清水 建次氏	希土類金属間化合物の核磁気共鳴
	東北大学科学計測研究所 佐藤 幸紀氏	イオン衝撃による有機化合物の光学禁制励起電子状態の研究
	大阪大学基礎工学部 西野 種夫氏	束縛多励起子の励起状態に関する研究
	東京大学理学部 矢崎 紘一氏	中間エネルギー物理学—— π 中間子と原子核との相互作用を中心として
	法政大学第二教養部 野矢 弘氏	重陽子の弾性および非弾性散乱における vector および tensor analyzing power について
1979	東京工業大学理学部 簗野 喜彦氏	パルスラジオリシス・マイクロ波空洞法によるベニングイオン化の研究
	東京工業大学理学部 武谷 汎氏	核反応における制動輻射の検出と time delay
	お茶の水女子大学理学部 富永 靖徳氏	光子相関分析法による非平衡開放系の研究
	東京大学理学部 長澤 信方氏	励起子、励起子分子による二次光学過程の研究
	新潟大学理学部 橋本 哲夫氏	アルファ反跳原子の固体表面での挙動に関する基礎研究
	山梨大学工学部 平岡 賢三氏	極薄膜固体 ($\leq 100 \text{ \AA}$) の低エネルギー電子線衝撃。エネルギー損失スペクトル、および励起発光スペクトルの測定

(贈呈先の所属は贈呈時のものによる。)

仁科記念奨励金贈呈先一覧（その二）

小規模国際研究集会 1980 年度より

年度	贈 呈 先 代 表 者	対 象	参 加 者
1980	名古屋大学理学部 早川 幸男氏	Symposium on Space Astrophysics	国内 51 名 国外 10 名
1981	東京大学原子核研究所 寺沢 英純氏	1981 INS Symposium on Quark and Lepton Physics, Tokyo	国内 199 名 国外 22 名
	〃 藤川 和男氏		
	東京大学理学部 有馬 朗人氏	Symposium on Nuclear Collectivity	国内 19 名 国外 6 名
1982	大阪大学理学部 細谷 暁夫氏	Symposium on Gauge Theory and Gravitation	国内 152 名 国外 27 名
	大阪大学基礎工学部 長谷田泰一郎氏	International Meeting on Transition to New Type of Ordered Phase	国内 80 名 国外 37 名
1983	大阪大学核物理研究センター 小方 寛氏	1983 RCNP International Symposium on Light Ion Reaction Mechanism	国内 140 名 国外 44 名
	東京大学物性研究所 中嶋 貞雄氏	International Symposium on Foundation of Quantum Mechanics in the Light of New Technology	国内 120 名 国外 46 名
	東京大学宇宙線研究所 三宅 三郎氏	Cosmic Rays and Particle Physics	国内 95 名 国外 30 名
1984	高エネルギー物理研究所 西川 哲治氏	Future Perspective on High Energy Physics International Committee for Future Accelerators	国内 20 名 国外 80 名

年度	贈 呈 先 代 表 者	対 象	参 加 者
1985	理化学研究所 野崎 正氏	5th International Symposium on Radio-pharmaceutical Chemistry	国内 92 名 国外 105 名
	東京大学原子核 西村 奎吾氏 研究所	1984 INS-RIKEN International Symposium on Heavy Ion Physics	国内 105 名 国外 42 名 (東京) 国内 102 名 国外 71 名 (山中湖)
	京都大学基礎物 牧 二郎氏 理学研究所	The 7th Kyoto Summer Institute Dynamical Problems in Systems	国内 87 名 国外 22 名
	関西学院大学理 山田 晴河氏 学部	International Symposium on Spectroscopic Studies of Adsorbates on Solid Surfaces	国内 66 名 国外 50 名
	東北大学理学部 糟谷 忠雄氏	The 5th International Conference on Crystalline Field and Anomalous Mixing Effects in f-Electron Systems	国内 118 名 国外 48 名
	京都大学基礎物 佐藤 文隆氏 理学研究所	The 8th Kyoto Summer Institute Quantum Gravity and Cosmology	国内 100 名 国外 20 名
	群馬大学工学部 田沼 静一氏	International Symposium on Intercalation Compounds	国内 71 名 国外 44 名
	大阪大学産業科 川西 政治氏 学研究所	The 8th International Symposium on Exoelectron Emission and Applications	国内 106 名 国外 23 名

年度	贈 呈 先 代 表 者	対 象	参 加 者
1986	大阪大学核物理 近藤 道也氏 研究センター	6th International Symposium on Polarization Phenomena in Nuclear Physics	国内 171 名 国外 134 名
	東京大学理学部 小柴 昌俊氏	7th Workshop on Grand Unification ICOBAN 86	国内 105 名 国外 50 名
	東北大学金属材料研究所 武藤 芳雄氏	Joint Japanese-Sino Seminar on Superconducting Materials	国内 58 名 国外 10 名
	理化学研究所 栗屋 容子氏	The International Seminar on Dynamic Processes of Highly Charged Ions	国内 38 名 国外 20 名
	東京理科大学理工学部 尾立 晋祥氏	Few-body Approach to Nuclear Reactions in Tandem and Cryclotron Energy Regions	国内 35 名 国外 32 名
1987	東京大学理学部 永嶺 謙忠氏	International Symposium on Muon Catalyzed Fusion	国内 42 名 国外 33 名
	東京大学理学部 富永 健氏	13th International Hot Atom Chemistry Symposium	国内 90 名 国外 47 名
	東京工科大学 塩谷 繁雄氏	6th International Conference on Dynamical Processes in Excited States of Solids	国内 110 名 国外 78 名
	東邦大学理学部 佐々木 亘氏	The University of Tokyo International Symposium on Anderson Localization	国内 52 名 国外 52 名

年度	贈 呈 先 代 表 者	対 象	参 加 者
1988	高エネルギー物 高橋 嘉右氏 理学研究所	7th International Conference on Physics in Collision	国内 98 名 国外 98 名
	宇宙科学研究所 田中 靖郎氏	International Symposium on The Physics of Neutron Stars and Black Holes	国内 60 名 国外 60 名
	東京大学原子核 加藤 貞幸氏 研究所	第 16 回 INS 国際シンポジウム「ニュートリノ質量とその周辺」	国内 84 名 国外 24 名
	秋田大学医学部 滝沢 行雄氏	Second International Conference on Low Level Measurements of Actinides and Long-Lived Radionuclides in Biological and Environmental Samples	国内 30 名 国外 70 名
	京都大学理学部 寺本 英氏	The 2nd Japan-China Bilateral Symposium on Biophysics	国内 50 名 国外 30 名
	東京大学理学部 石原 正泰氏	International Symposium on Heavy Ion Physics and Astrophysical Problems	国内 115 名 国外 30 名
	北海道大学理学部 赤石 義紀氏	Sapporo International Symposium on Developments of Nuclear Cluster Dynamics	国内 37 名 国外 27 名

年度	贈 呈 先 代 表 者	対 象	参 加 者
1989	京都大学基礎物 高山 一氏 理学研究所	コンプレックスな物理系における動的協力現象に関する湯川国際セミナー	国内 88 名 国外 25 名
	宇宙科学研究所 高柳 和夫氏	Second Japan-China Symposium on Atomic and Molecular Physics	国内 26 名 国外 12 名
	高エネルギー物 菅原 寛孝氏 理学研究所	KEK Topical Conference on e^+e^- Collision Physics	国内 100 名 国外 50 名
	分子科学研究所 井口 洋夫氏	International Symposium on VUV-SX Physics and Chemistry	国内 50 名 国外 7 名
	東京大学物性研 守谷 亨氏 究所	ISSP International Symposium on the Physics and Chemistry of Organic Superconductors	国内 70 名 国外 30 名
1990	東京大学原子核 野村 亨氏 研究所	Physics and High-Intensity Hadron Accelerators	国内 100 名 国外 30 名
	京都大学基礎物 西島 和彦氏 理学研究所	数学と場の量子論における共通の問題	国内 60 名 国外 20 名
	大阪産業大学 長谷川博一氏 理化学研究所	惑星間塵の起源と進化	国内 60 名 国外 140 名
	渡部 力氏	原子衝突の理論的研究	国内 30 名 国外 15 名
	東京大学理学部 佐藤 勝彦氏	宇宙初期における元素合成と初期宇宙の進化	国内 50 名 国外 50 名
1991	東京大学宇宙線 荒船 次郎氏 研究所	最高エネルギー宇宙線の宇宙物理学的問題	国内 50 名 国外 20 名
	分子科学研究所 井口 洋夫氏	非線形光学材料に関する日ソシンポジウム	国内 24 名 国外 13 名

年度	贈 呈 先 代 表 者	対 象	参 加 者
1991	広島大学理学部 宮村 修氏	高エネルギー原子核衝突とクォークグルーオンプラズマ	国内 62 名 国外 28 名
	新潟大学理学部 池田 清美氏	不安定核の構造と反応	国内 68 名 国外 32 名
	京都大学基礎物 長岡 洋介氏 理学研究所	1991 Yukawa International Seminar on "Low Dimensional Field Theories and Condensed Matter Physics"	
	東北大学金属材 鈴木 謙爾氏 料研究所	第 5 回非結晶構造物質の構造に関する国際会議	国内 74 名 国外 44 名
	東北大学サイク 藤岡 学氏 ロトロン・ラジ オアイソトープ センター	電磁質量分離器とその応用技術に関する第12回国際会議	国内 91 名 国内 58 名
	高エネルギー物 小林 誠氏 理学研究所	格子上の場の理論国際会議	国内 46 名 国外 130 名
1992	東京大学物性研 村田 好正氏 究所	第 3 回物性研国際セミナー「固体表面における原子分子のダイナミックス」	国内 139 名 国外 23 名
	東北大学サイク 織原彦之丞氏 ロトロン・ラジ オアイソトープ センター	バイオPIXEシンポジウム	国内 109 名 国外 42 名
	大阪大学理学部 都 福仁氏	磁性と超伝導に関する日独セミナー	国内 42 名 国外 29 名
	東海大学理学部 鶴岡 靖彦氏	アジア物理教育シンポジウム	国内 48 名 国外 44 名
	電気通信大学 松沢 通生氏	第 1 回東アジア国際セミナー「原子分子物理学」	国内 66 名 国外 16 名

年度	贈 呈 先 代 表 者	対 象	参 加 者
1992	分子研究所 中村 宏樹氏	分子動力学と化学反応に関する日本イスラエル合同シンポジウム	国内 30 名 国外 6 名
	東京大学宇宙線研究所 荒船 次郎氏 戸塚 洋二氏	International Symposium on Neutrino Astrophysics	国内 130 名 国外 78 名
	東京大学原子核研究所 坂田 文彦氏	第21回核研シンポジウム「高速回転する原子核」	国内 75 名 国外 60 名
1993	東京大学理学部 永嶺 謙忠氏	ミュオンスピン回転緩和共鳴 国際会議	国内 21 名 国外103名
	日本大学理学部 宇野 良清氏	第11回ホウ素及びホウ化物に関する国際会議	国内 55 名 国外 34 名
	京都大学基礎物理学研究所 池田 研介氏	湯川国際セミナー「量子とカオス」	国内 50 名 国外 22 名
	電気通信大学 宅間 宏氏	第21回純粋応用物理学連合総会	国内 58 名 国外 69 名
	東京大学物性研究所所長 竹内 伸氏	第 4 回物性研究シンポジウム「強磁場における最前線」	国内153名 国外 38 名

(贈呈先の所属は贈呈時のものによる。)

海外派遣研究者一覧

年 度	派 遣 者	研 究 目 的	留 学 先
1956	小林理学研究所 森田 正人氏	原子核理論、素粒子論の研究	アメリカ
	東京大学教養学 松浦 二郎氏 部	超ウラン元素の化学的研究	フランス
1957	東京大学教養学 小出昭一郎氏 部	結晶内における遷移金属イオンの諸性質の理論的研究	イギリス
	東京大学農学部 麻生 末雄氏	ラジオアイソトープの農学分野における利用	アメリカ
1958	立教大学理学部 伊藤 隆氏	生物体におよぼす放射線の影響	アメリカ
1959	東京大学大学院 真隅 泰三氏 数物系研究科	固体電子工学の基礎物理的研究	アメリカ
	東京大学原子核 磯矢 彰氏 研究所	サイクロトロンによる核反応の研究	アメリカ
1960	東京教育大学理 池田 長生氏 学部	放射化学、分析化学に関する新しい知見、技術の研究	ドイツ
	理化学研究所 佐田登志夫氏	機械工業における RI の利用	アメリカ
	東京大学原子核 菅 浩一氏 研究所	空気シャワーの研究	アメリカ
1961	東洋紡績(株)技術 上田 寿氏 研究所	放射線の固体高分子化合物中に生じたラジカルの電子スピン共鳴吸収による研究	アメリカ
	北海道大学理学 渡辺 宏氏 部	結晶内 ions を marker として local な性質を調べる	イギリス
1962	大阪大学理学部 近藤 道也氏	加速器、ことに A. V. F. サイクロトロンの研究	アメリカ
	電電公社電気通 新井 敏弘氏 信研究所	磁界中における半導体の光学的諸性質の研究	イギリス
1963	東京大学応用微 金井 竜二氏 生物研究所	同位元素を用いた光合成機作の研究	ドイツ
1964	東京都立大学理 金子洋三郎氏 学部	原子衝突の実験に関する研究	イギリス

年 度	派 遣 者	研 究 目 的	留 学 先
1965	ソニー株式会社 森垣 和夫氏 研究所	半導体内の電子状態の研究	フランス
1966	大阪大学理学部 溝淵 明氏	Van de Graaff 型加速装置を用いた原子核反応による核構造の研究	アメリカ
	東京大学大学院 香村 俊武氏 理学系研究科	素粒子の原子核反応、重粒子間の相互作用の研究	イギリス
1967	京都大学理学部 牟田 泰三氏	場の理論における複合粒子の条件	イギリス
	東京大学原子核 黒田 育子氏 研究所	原子核（中重核）の多体問題的方法、およびその構造について研究	デンマーク
1968	東京大学理学部 池田 清美氏	原子核構造の種々の側面の理論的追究	ソ連、デンマーク
1969	東京大学理学部 山崎 昶氏	核磁気共鳴とその応用	ドイツ
1970	東京大学教養学部 林 憲二氏	素粒子論ハドロンの表現	ドイツ
	東京大学原子核 永野 元彦氏 研究所	(1)水平シャワーの観測と解釈 (2)空気シャワーの芯の研究	ドイツ
1971	東京大学原子核 石原 正泰氏 研究所	インピード γ 線を用いた原子核構造、核反応の研究	スウェーデン
	東京大学物性研究所 栗田 進氏	イオン結晶の遠赤外レーザーによるサイクロトロン共鳴、および帯間磁気光吸収の精密な測定により励起子および電子のポーラロン効果を研究	アメリカ
1972	東京工業大学理学部 八田 一郎氏	誘電体の相転移の動的機構	イギリス
	東京都立大学理学部 広瀬 立成氏	反核子偏極の測定及び $\bar{p}p$ 消滅における多重発生の研究	ドイツ
1973	東京大学理学部 永宮 正治氏	原子核の励起状態の電磁氣的性質の研究、および核スピンの物質中での超微細相互作用の研究	アメリカ
	東京大学工学部 海老沢丕道氏	(1)第二種超伝導体の輸送現象 (2)量子液体の磁氣的性質の研究	アメリカ
1974	東京大学理学部 高木 伸氏	液体ヘリウム 3 の異常相の理論的研究	イギリス

年 度	派 遣 者	研 究 目 的	留 学 先
1975	大阪大学教養部 大山 忠司氏	高密度励起子系における凝縮相の安定性とバンド構造の関係の研究	アメリカ
	東北大学金属材料研究所 黒田 規敬氏	層状半導体における非線形磁気光学効果の研究	アメリカ
	大阪大学理学部 仲伏 廣光氏	二段二重収束質量分析装置による原子質量の精密測定—原子質量の精密測定用 RF 質量分析計の再建作業、およびこれによる原子質量測定の研究	オランダ
1976	東北大学理学部 新村 信雄氏	TOF 中性子回折法による過渡現象の研究	デンマーク
	京都大学理学部 松柳 研一氏	中重核における集団励起モードの微視的理論の研究	デンマーク
1977	京都大学基礎物理学研究所 山脇 幸一氏	光的量子化の特徴である波動函数を用いてハドロン共鳴の分類の研究	アメリカ
	大阪大学理学部 片山 信一氏	IV-VI族化合物半導体の構造相転移の研究	アメリカ
	京都大学基礎物理学研究所 氷上 忍氏	相転移と臨界現象を理論的に研究	アメリカ
1978	筑波大学物理学系 外山 学氏	原子核反応の機構についての研究	アメリカ
	東京大学理学部 小野 義正氏	超流動 ³ Heの輸送現象の研究	アメリカ
	東京大学宇宙線研究所 倉又 秀一氏	原子核乾板と他の測定器の複合装置を用いて行なわれるニュートリノ反応による新素粒子研究実験への参加	アメリカ
1979	大阪大学工学部 田口 常正氏	II-VI半導体の格子欠陥の生成、消滅機構の研究	イギリス
	岡山大学工学部 東辻 浩夫氏	高密度プラズマの理論	アメリカ
1980	横浜国立大学教育学部 佐々木 賢氏	ノンレプトニック崩壊などの諸現象を量子色力学を用いて研究	アメリカ
	早稲田大学理工学研究所学生 玉田 雅宣氏	宇宙線を用いた超高エネルギー核衝突による新しい型の核相互作用の研究	ソビエト

年度	派遣者	研究目的	留学先
1981	新潟大学理学部 鈴木 宜之氏	軽い核におけるクラスター構造と高励起エネルギーでの分子の共鳴	アメリカ
	東京都立大学理学部 遠藤 和豊氏	同時計数メスバウア分光法により、壊変によって生じる不安定な化学種の時間的推移をしらべる研究	ドイツ
1982	名古屋大学理学部 三宅 和正氏	超流動の物理の理論的研究	イギリス
	東京大学大学院理学系研究科 手嶋 久三氏	anomalous Ward identity における発散の処理の再検討及び dynamical Higgs mechanism の模型と 100 GeV 領域の現象への反映	アメリカ
1983	大阪大学理学部 城 健男氏	磁気体積効果等の物性の研究及び photoemission の実験で得られている動的な現象の理論的研究	イギリス
	北海道大学工学部 住吉 孝氏	放射線化学初期過程の研究にピコ秒の時間分解能を有する電気伝導法を用い、従来からの種々の高速分光法とあわせて詳細な解明をおこなう。	西ドイツ
1984	立教大学理学部 鈴木 昌世氏	電離放射線励起及び光励起に基づく希ガス・シンチレーション(混合系、凝縮層を含む)に関する実験的研究	スイス
	東京大学理学部 梁 成吉氏	格子量子色力学、クォーク・グルオンの力学系の非摂動的構造の解明	デンマーク
1985	京都大学理学部 清水 良文氏	高スピン状態における原子核の分光学的研究	デンマーク
1986	大阪大学教養部 川村 光氏	相転移現象の統計力学的研究	アメリカ
	理化学研究所研究員 神原 正氏	加速器を用いた原子衝突過程の実験	西ドイツ
1987	東京大学教養学部 原 隆氏	構成的場の理論及び厳密統計力学	アメリカ
	東京大学大型計算機センター 吉永 尚孝氏	16 重極の自由度と相互作用するボソン模型	イギリス

年度	派遣者	研究目的	留学先
	琉球大学理学部 中里 弘道氏	確率過程量子化法とその応用	デンマーク
1988	東京大学教養学部 錦織 紳一氏	金属錯体をホストとする包接化合物の化学	カナダ
	東京大学理学部 松尾 泰氏 物理学教室	ひも理論の幾何学的量子化	アメリカ
1989	京都大学基礎物 武末 真二氏 理学研究所	可逆セルオートマトンの熱力学的振舞	アメリカ
	京都大学教養部 小林健一郎氏	Conformal Field Theory と String のコンパクト化	アメリカ
	東北大学理学部 高木 滋氏	希土類及びウランの化合物での重い電子系の物性研究	スイス
1990	東京大学物性研 福山 寛氏 究所	超低温・高磁場下での個体 ³ He の核磁性	アメリカ
	慶應義塾大学理 高野 宏氏 工学部	ランダム・スピン系における緩和現象の統計力学的研究	イギリス
	高エネルギー物 石橋 延幸氏 理学研究所	二次元の場の量子論と弦理論	アメリカ
	京都大学基礎物 松尾 正之氏 理学研究所	原子核における大振幅集団運動の理論的研究	デンマーク
1991	新潟大学理学部 矢花 一浩氏	原子核理論	アメリカ
	大阪大学教養部 小堀 裕己氏	物性実験	アメリカ
	京都大学基礎物 菅野 浩明氏 理学研究所	重力理論	イギリス
1992	東京大学教養部 松田 祐司氏	高温超伝導実験	アメリカ
	高エネルギー物 野尻美保子氏 理学研究所	素粒子理論	アメリカ
	理化学研究所 小島 隆夫氏	低エネルギーイオン分子反応実験	アメリカ
1993	広島大学理学部 大野木哲也氏 物理学科	素粒子論	アメリカ
	広島大学理学部 森 弘之氏 物性学科	物性理論	アメリカ

年 度	派 遣 者	研 究 目 的	留 学 先
	順天堂医学部物理研究室 中田 仁氏	原子核理論	アメリカ
	学習院大学理学部化学科 加藤 隆二氏	放射線化学	ドイツ

(派遣者の所属は派遣時のものによる。)

財団法人 仁科記念財団

113 東京都文京区本駒込 2 丁目 28 番 45 号

電話 東京 03 (3942) 1 7 1 8

郵便振替番号 東京 3-135934

(1994年 1 月) 1,200